東京ジャーミイ金曜日のホタバ
**2006年3月31日**

# 子、妻、母としての女性

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、世界の全てを両性に創られました。クルアーンでは、「またわれは、凡てのものを両性に創った。あなたがたは訓戒を受け入れるであろう（という配慮から）。」（撒き散らすもの章第49節）という章句でこの事実が明らかにされています。アッラーの御前において尊い地位をもつ人間も、女性と男性として創造されました。全ての被造物においてそうであるように、男性と女性の創造においても無数の英知が秘められているのです。

女性は、アッラーの私たちへの信託である配偶者であり、アッラーが私たちに目の光として与えられた女児たちであり、私たちの創造と、人生を通して庇護を求める相手である母であるのです。

女性は、私たちの母です。母は、私たちがこの世界へ来る際の媒介となり、多くの困難、苦しみに耐え、献身のシンボルである存在です。出産後は、必要に応じて眠りを放棄し、子どもたちを慈しみといたわりに満ちた胸に抱いて授乳し、愛情を持って育てます。私たちの年がいくつであろうと、いつでも母の愛、慈悲、いたわりを必要としていることを、私たちは心から感じています。

親愛なるムスリムの皆様。配偶者として女性は、生涯の友です。人生の困難さ、悲しみ、不安を分け合い、軽減させます。安らぎと幸福を配偶者と分かち合うことによって、私たちの人生はより意義あるものとなります。そもそも、家庭というものを築く本来の目的がこれなのです。「またかれがあなたがた自身から、あなたがたのために配偶を創られたのは、かれの印の一つである。あなたがたはかの女らによって安らぎを得るよう（取り計らわれ）、あなたがたの間に愛と情けの念を植え付けられる。本当にその中には、考え深い者への印がある。」（ビザンチン章第21節）という章句は、私たちの思いをなんと見事に言葉にしているでしょう。配偶者と私たちの間に存在する愛情と情けはアッラーからのものです。忘れてはいけないことは、彼女たちは私たちへのアッラーからの信託であり、私たちも彼女たちへのアッラーからの信託であるということです。生涯を通して共に過ごす配偶者たちが、親愛や双方向からの愛情、敬意をより必要とすることは明らかです。クルアーンでも、「出来るだけ仲良く、かの女らと暮しなさい。あなたがたが、かの女らを嫌っても（忍耐しなさい）。そのうち（嫌っている点）にアッラーからよいことを授かるであろう。」（婦人章第19節）と仰せられています。

親愛なるムスリムの皆様。女性は、私たちが自分の命ほどに愛する女児たちです。残念なことに、女の子どもを軽視する誤った態度、見解がいまだに存在し続けています。女の子であれ男の子であれ、彼らはアッラーが喜びや幸福の源として与えられた恵みだということを忘れてはいけません。子どもたちに対する振舞い、彼らに示す慈悲、慈愛が性別によって区別されるべきではないのです。女の子たちが遺産相続や教育の機会を与えられないというのは、私たちの教えにはそぐわないことです。今日のフトバを、全ての点において私たちの模範であられる慈悲深い預言者の次の言葉で締めくくりたいと思います。「誰であれ、女の子どもたちのために困難な状況にありながら彼女たちをよく守れば、この子どもたちは彼を地獄の炎から守る防御となる。」「誰であれ、二人の娘を成長するまで育て、躾けるなら、最後の審判の日私は彼と共にあるだろう。」